

授業科目(ナンバリング)	旅行業論 (CB216) (実践的教育科目)			担当教員	森尾 真之 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本講義では、これまでの旅行業の歩みや旅行業に関わる業務やその役割、関連法令、マーケットや旅行業界を取り巻く業界の動きなどを多面的に学び、あらゆる業種との親和性があるとされる旅行業について総合的に理解することを目標とする。特に今後の旅行業の中心となる法人営業と地域交流事業については全体像を重点的に学び、付加価値の高い企画提案の基礎の習得をねらいとする。							①⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	旅行業の全体を理解し、これまでのビジネスモデルや現状の課題やトピックスについて批評することができる。また旅行業における商品、市場等の基礎知識や専門用語について説明できる。				定期試験	40%	
情報収集、分析力	現状を分析し、文章を自分の言葉でまとめる力をつけ、自分の意見を論理的に発表できる。				定期試験 課題レポート	10% 20%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力	旅行業が抱える問題点や新しい動きについて学び、これからの旅行業の方向性について提案することができる。				課題レポート	20%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験 (50%)、課題レポート (40%)、授業態度や課題提出状況の評価 (10%) により総合的に評価する。課題レポートについては複数回実施し、内容については授業内で提示する。フィードバックはポートフォリオや講義中に適宜行う。定期試験については旅行業の歩みや仕組み、ビジネスモデルの理解に加え、今後の旅行業界に関する展望についての記述など広範囲な出題対象となる							
授業の概要							
旅行業の成り立ちから新型コロナ前の旅行業務については、テキストを参照しながら、スライドや映像をつかって担当教員の旅行業での企画販売や法人営業の多様な実務経験と現役の実務家である外部講師の特別講義により多角的に学ぶ。新型コロナ後の旅行業の展望やワークについては、本講義のオリジナル資料などの配布や参考文献の紹介を適宜行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：旅行業概論―旅行業のゆくえ― 同友社 参考書：特になし 指定図書：特になし							
授業外における学修及び学生に期待すること							
これまで旅行業界は国際情勢の変化や感染症の流行などで大きな打撃を被ってきたが、その都度人々に笑顔と感動をもたらしてきた旅行業の平和産業として果たしてきた役割は大きい。大きく変化するライフスタイルに対応するビジネスモデルへの確立は現状難しいが、受講生においては、旅に関わる仕事のすばらしさを理解し、自由な発想で旅行業の門戸を叩く人材に期待する。本講義で今後求められるスキルとされるコンサルティング力やコーディネート力などを習得するきっかけをつかみ、普段からどうすれば喜ばれる企画やサービスができるかを考えるようになってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	講義内で学ぶ内容を理解する。 ①これまでの日本における旅行業の存在基盤とビジネスモデル②今後の経営軸となる法人営業③大きく環境が変化する旅行業の方向性	復：講義における旅行業に関する学びを整理する。
2	旅行業のあゆみ	世界と日本における近代旅行業の成り立ちの歴史を学ぶ。(日本における交通網の発達と旅行業の発展、旅行マーケットの変化)	予：テキスト P5～P25 の内容を確認する。
3	旅行業のしくみ	旅行ビジネスの成り立ちを学ぶ。 ・旅行素材と旅行商品の定義について ・旅行業の現状について (役割の機能の変化)	予：テキスト P42～P51、P57～P71 の内容を確認する。
4	主な業務内容とプレイヤー	旅行業務における仕事をバリューチェーンで理解する。また関連・パートナー企業、保険業務との関係性も理解する。	予：テキスト P51～P57 の内容を理解する。 復：課題レポート①
5	旅行業法・旅行業約款	企画旅行と手配旅行 旅行業の登録、規則・規制、法務対応	予：テキスト P28～P40 の内容を理解する。
6	旅行業界を取り巻く変化①	旅行産業における最も重要なビジネスである国内旅行のマーケットやビジネスの現状と課題を学ぶ。	予：テキスト P73～P98 の内容を理解する。
7	旅行業界を取り巻く変化②	観光目的の個人旅行を中心に、海外募集型企画旅行 (商品造成・販売) の過程やマーケットに影響する外的要因について学ぶ。	予：テキスト P99～P124 の内容を理解する。
8	学習のまとめとこれからの旅行業について	これまでの学びを整理し、今後の講義で学ぶこれからの旅行業の在り方について学ぶ	予：これまでのテキストでの学習の整理
9	テーマ型旅行の市場について	旅行に対する消費者のニーズの進化が、特定の目的を持つ目的型旅行の市場が顕在化した形態である SIT、ニューツーリズムなどの業界の動きを学ぶ。 (実務家による特別講義予定)	予：テキスト P84 の表を確認する。 復：課題レポート②
10	法人営業 (概要)	企業活動に貢献し、ソリューションビジネスへ移行する旅行業の未来を支える仕事である法人営業の概要を学びその醍醐味を考える。	予：テキスト P126～P137 の内容を理解する。
11	法人営業 (スポーツビジネス)	主に旅行会社を取り扱う MICE ビジネスと「見る」「する」スポーツのそれぞれに旅行ビジネスの可能性を学ぶ。 (実務家による特別講義予定)	予：テキスト P139～P142, P145～P150 の内容を理解する。
12	法人営業 (教育旅行・その他法人)	学校行事としての修学旅行は、体験型から学習型に変化し、旅行会社に求められる企画提案力、演出力について学ぶ。 (実務家による特別講義予定)	予：テキスト P137～P139 の内容を理解する。 復：課題レポート③
13	法人営業 (ソリューションビジネス)	今後の法人営業の必須項目となるのが、旅行業務からそのフィールドを広げるソリューションビジネスであり、その具体的な価値創造の形態を学ぶ。 (実務家による特別講義予定)	予：テキスト P142～P144 の内容を理解する。
14	地域交流事業	これまでの発地中心の発想から、地域のオンリーワンの特色あるコンテンツ作りから観光による 6 次産業化など地域を巻き込んだ着地ビジネスの取り組みを学ぶ (実務家による特別講義予定)	予：自分の地域でそのような着地型旅行が実施されているかを H P で確認する。
15	旅行業のこれから	これまで学んできた旅行業の現在、そして未来の可能性、新たなビジネスモデルを振り返り、これからの旅行業の方向性と求められる人材を考える。	予：これまでの講義で学んだことを整理しておく。 復：課題レポート④
16	定期試験	筆記試験	授業を振り返り、試験の準備をする。